

教育長紹介



長野県

うちぼり しげとし
内堀 繁利

「教育を通して、『個人と社会のウェルビーイング』を実現していきたい。そのために、長野県がこれまで進めてきた探究を中核とする学びの改革や子どもたちを主語にした学校づくりなどを一層推進するとともに、変えるべきことや新たに始める必要があることについても、積極的に取り組んでいきたい。」と抱負を語る。また、「ますます変化が激しく予測が困難になっていく時代にあって、共に学び、考え、対話し、共につくる『共学・共創』を大事にしていきたい。」と意欲を示す。

昭和60年、長野県立高等学校教員として採用。参事兼高校教育課長、長野県上田高等学校長、高校改革推進役などを歴任し、本年5月に教育長に就任。64歳。

(長野県教育委員会事務局教育政策課長 松本 順子)



相模原市

わたなべ しずよ
渡邊 志寿代

「児童生徒が夢と希望を持って未来を切り拓いていくためには、学力・体力を育むとともに、様々な教育活動の中で実体験を通して生きる力を身に付けていくことが大切」と思いを語る。

「子どもの命と健康を守り、安全安心に毎日生き生きと学べる環境をつくることを最優先にし、ICTの活用や、全員喫食の早期実現に向けた学校給食の改革を推進していくとともに、学びたいときに学ぶことができる市民のニーズに応えられるよう生涯学習の環境づくりや推進体制の一層の充実に努めていきたい」と意欲を示す。

昭和62年に相模原市に入庁。福祉部参事、教育環境部長、市民局長を歴任し、本年10月に教育長に就任。58歳。

(相模原市教育委員会教育局教育総務室長 兼杉 千秋)



名古屋市

つばた ともひろ
坪田 知広

「名古屋の学校すべてが『安心・安全な居場所』となり、子どもの命を守ることはもちろん、子どもたち一人ひとりが主体的に好奇心をもって取り組める『豊かな学びに溢れた学習の場』となるように全力を尽くす」と教育改革に向けた抱負を語る。

具体的には「いじめ防止対策と不登校支援の一層の推進をはじめとして、高校入試と部活動の改革、キャリア教育・学校図書館の充実にに向けた取組などを強力に進める」と意欲を示す。

福井県出身。平成4年文部省に入省。愛知県警察本部や三重県教育委員会への出向の後、社会教育課長、競技スポーツ課長、児童生徒課長、文部科学戦略官、独立行政法人国立高等専門学校機構理事などを経て、本年7月に教育長に就任。53歳。

(名古屋市教育委員会事務局総務部総務課長 小川 真一)



堺市

あわい あきひこ
栗井 明彦

「これからの予測困難で変化の激しい時代を生きる子どもたちが前を向いて学ぶためには、教職員も前を向かなければならない。」と思いを語る。「今後は、データサイエンスを活用し、過去の教育活動に係る数多のデータを経験と勘による暗黙知的なものから、可視化しやすい形式知的なものにし、共有化を進めることができれば、前を向いていける」と意欲を示す。

平成5年文部省採用。文部科学省初等中等教育局財務課教職員配置計画専門官、千葉県香取市教育委員会教育長、文部科学省総合教育政策局安全教育推進室長、東京都世田谷区教育委員会教育監、文部科学省初等中等教育局視学官などを歴任し、本年10月に教育長に就任。54歳。

(堺市教育委員会事務局教育政策課長 橋本 宏司)



岡山市

みやけ たいじ
三宅 泰司

「人権尊重の理念に基づき、学校が安心安全な学びの場となるようにするとともに、子どもも教職員も元気にやる気をもって生活したり、学んだりすることができる環境を整えたい。」と抱負を語る。

「未来の希望である子どもたちが、様々な変化に積極的に向き合い、多様な人々と協働しながら、自分も他の人も幸せな社会をつくることができるように、学校と教育委員会が一体となって、コミュニケーションを基盤とした読解力の育成に取り組み、学びの土台を強固なものにしていく。」と意欲を示す。

昭和59年に岡山市立御野小学校教諭となり、市教育委員会事務局学事課長、教育次長、市立芳泉小学校長を経て、本年9月に教育長に就任。61歳。

(岡山市教育委員会事務局教育総務部企画調整担当課長 植山 智恵)